

令和4年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立巨勢小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童（生徒）の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童（生徒）一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童（生徒）の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

令和4年4月19日（火）

■ 調査の対象学年

小学校6年生児童

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査(国語、算数・数学、理科)

- | |
|---|
| ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定の割合で導入する。 |
|---|

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

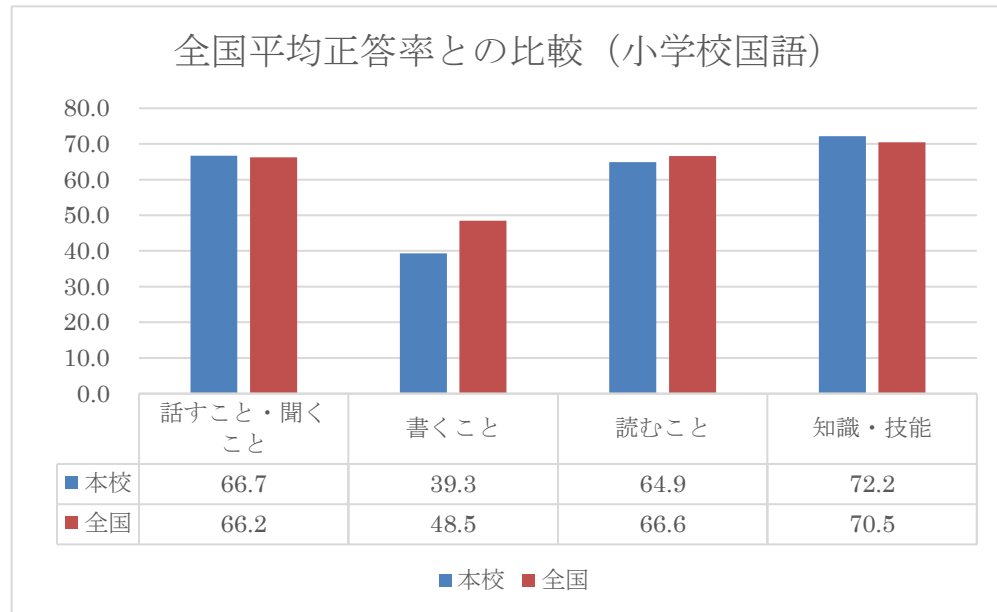
児童に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査 (例) 国語への興味・関心、授業内容の理解度、読書時間、勉強時間の状況など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況など

■ 調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご理解の上、ご欄ください。

■ 調査結果及び考察

1 国語



(1) 結果

「話すこと・聞くこと」「知識・技能」は、全国平均正答率をやや上回っています。「書く」「読む」の領域は、全国平均よりも低くなっています。

(2) 成果と課題

今回の調査で、知識・技能」が 1.7 ポイント上回りました。国語科の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」のそれぞれの内容領域の根幹をなす言葉の力であり、普段から、漢字や言葉の学習、音読などの成果が表れていると考えられます。課題は、問題形式の「記述式」の正答率を上げることです。正答率 46.3% は、全国平均正答率 51.3% を下回っていて、苦手になっている児童が多くいます。児童の記述力を高めることが、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の力を伸ばすことにつながります。単なる「知識」を問う問題ではなく、「思考力・判断力・表現力」を重視した問題が増えていく傾向にありますので、授業改善を通して、日々の授業で力を付けていくことが重要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

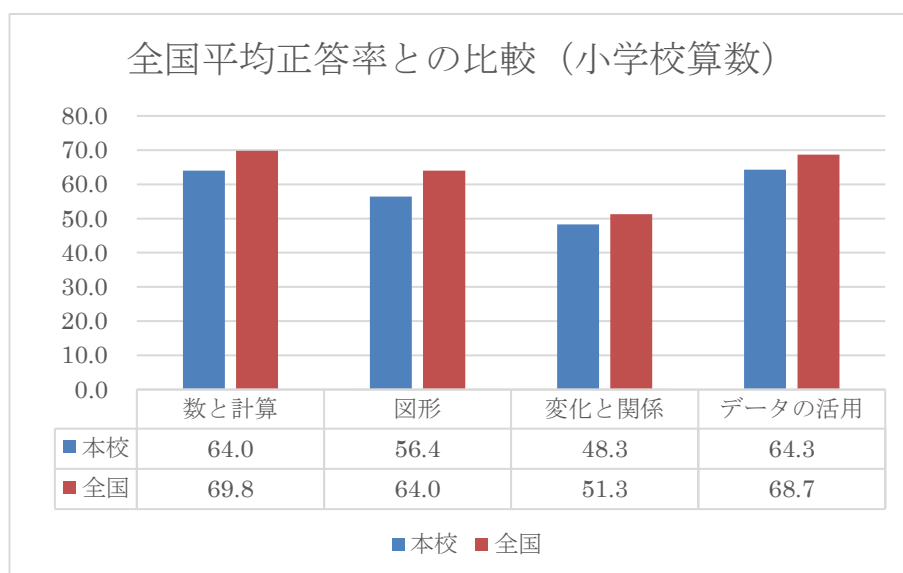
【学校では】

- 子どもが主体的に学べるように、授業の在り方を工夫すること（主体的・対話的で深い学び）で、子供同士が話し合いながら、深く学んでいけるようにします。
- 目的や意図に応じて、自分の考えとその理由を明確にしながらかく機会を増やします。
- 漢字の読み書き、言葉の使い方等の学習に一層力を入れ、語彙力や文章力を高めます。
- インタビュー、案内や紹介など、日常生活につながる言語活動を授業場面で設定します。習得した国語の力を活用させる場面を増やすことで、表現力を向上させていきます

【ご家庭では】

- 音読を大切にしていましょ。繰り返し音読することで、文の構成、言葉の意味を理解し、文節ごとにきちんと区切ってすらすら読めるようになります。文章を読み、要点や意図を捉えることは、国語科だけでなく全ての教科の学力向上に不可欠です。
- 読書を大切にしていましょ。文学・科学・歴史・地理・芸術…いろいろな本を読み、いろいろな表現や用語にふれることで、語彙力を高め知識の幅を広げることができます。市立図書館や本屋に定期的に行くことも、子供の読書習慣をつける上でおすすめです。

2 算数



(1) 結果

全ての領域で全国平均をやや下回っています。また、無解答率を見ると、ほぼすべての問題で全国平均よりやや低くなっています。

(2) 成果と課題

今回の調査では、「B 図形」の領域に関する問題の正答率が全国平均正答率を 7.6 ポイント下回っていました。これは、プログラミングを出題されたことによります。「プログラムによる図形を描くための辺の長さの問題」「図形をかくためのプログラムを選ぶ問題」「示されたプログラムでかくことができる図形を選ぶ問題」の 3 問とも、全国平均正答率を下回っていました、プログラムを実際に入力する経験の積み重ねが必要だと思われました。プログラミングに関しては、一人一台端末を活用して今後も指導の充実を図ります。

今後、無回答率を改善するためにも、日々の授業で説明する活動、書く活動を継続して取り入れ、記述した内容を確認させることが重要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

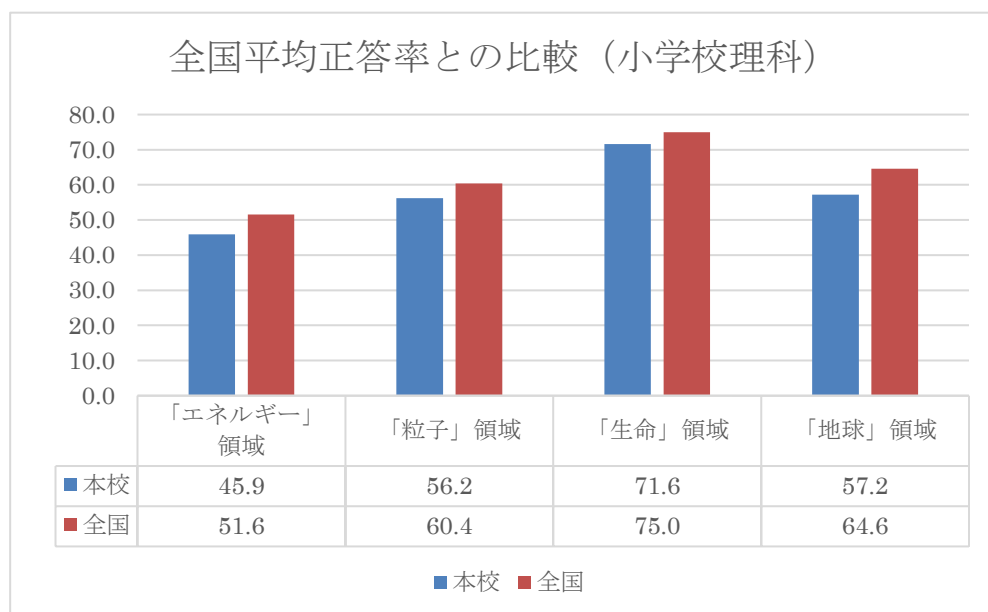
【学校では】

- 式から答えを出すだけでなく、式の意味を考えさせたり、式に合う問題を作らせたり、式から生活場面を想起させたりしながら、式、絵や図、具体的場面を行き来させるようにします。
- いろいろな考え方ができるように、グループで話し合う活動を取り入れていきます。また、自分の考えを、式や言葉を使って、論理的に書く機会を増やし、記述力の向上に努めます。
- TT少人数指導、ノートチェック、プリント、ドリル、家庭への課題など、日々の指導の中で個々のつまづきを早期に見つけ、補充指導に努めます。

【ご家庭では】

- お子さんのドリルやプリント等の宿題の様子やテストをご覧になって、たくさんの励ましや称賛の言葉をかけてください。
- 算数を好きにするには、「習ったことが生活の中で使えて、便利だな。おもしろいな。」と思う経験をさせることが有効です。生活場面で算数を使ってみてください。「おかし分けで割り算」「料理で重さ」「お風呂で水のかさ」「買い物で暗算」「折り紙で分数」「家の中で図形探し」など、ちょっと意識するだけで、身のまわりには算数を使えるものが意外とあります。

3 理科



(1) 結果

どの領域も全国平均を下回っています。無解答率を見ると、ほぼすべての問題で全国平均より低くなっています。

(2) 成果と課題

今回の調査では、「生命」の領域で、昆虫の育ち方と食べ物の関係から新たな問題を発見するという問題の正答率が全国平均正答率を6.6ポイント上回っていました。しかし、「粒子」の領域で、3種類の水溶液の温度の変化を考察する問題と、「地球」の領域で、天気と気温の関係を結果から考察する問題の正答率が全国平均正答率を約10ポイント下回っていました。また、実験器具の名前を問う問題や、光の性質の基礎的な問題に課題が見られたため、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る必要があります。

自然現象から得た情報を、他者の気付きの視点で分析して解釈し、自分の考えを記述する問題が全国平均正答率を下回るなど、記述式の問題でも課題が見られました。

日々の授業で、問題解決の過程を取り入れた授業、説明する活動、書く活動を継続して取り入れ、科学的な解決を導き出したり、記述した内容を確認させたりすることが重要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 目的意識をもった実験・観察を行うための基礎的・基本的な知識・技能の定着を図ります。
- 理科の学習過程を「事象提示→課題→予想→実験・観察→結果→考察→まとめ」とし、一貫した学習指導を行うことにより、児童の思考力、判断力、表現力を向上させます。
- 様々な見方や考え方ができるように、グループで話し合う活動を取り入れていきます。また、結果に対する考察を論理的に書く機会を増やし、記述力の向上に努めます。

【ご家庭では】

- お子さんの宿題プリントやテストをご覧になって、励ましや称賛の言葉をかけてください。
- 理科が好きになる場合も、「習ったことが生活の中で使えて、便利だな。おもしろいな。」という経験をさせることが有効です。星空を見上げて星座の話をしたり、コップの結露の理由を考えたりすることで、習ったことと日常生活での現象を結びつけると理解が深まることもあります。
- 佐賀県立宇宙科学館や佐賀県立博物館などのイベントチラシ等も配布しております。お時間があるときに一緒に行ってみることで、興味関心が向上することもあります。

4 生活習慣や学習習慣に関する調査

(1) 結果

《生活習慣・挑戦心・規範意識について》

調査項目	本校 %	全国平均 %
朝食を毎日食べていますか。	69.8%	84.9%
毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。	34.9%	40.7%
毎日同じくらいの時刻に起きていますか。	51.2%	56.8%
自分にはよいところがあると思いますか。	23.3%	39.4%
難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか。	27.9%	27.6%
人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	81.4%	75.1%
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	67.4%	83.9%

朝食・起床・就寝については全国平均を下回っています。「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムを大切にしていくことはとても重要です。家庭と学校で協力して、習慣化していきましょう。

6番目の項目である挑戦心や生き方について、肯定的な回答をした児童は全国平均よりも高い結果が出ています。

《家庭学習の様子》

調査の項目	本校%	全国平均 %
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。	23.3%	27.5%
学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。「3時間以上」	7.0%	11.3%
「2時間以上、3時間より少ない」	11.6%	13.8%
「1時間以上、2時間より少ない」	32.6%	34.3%
「30分以上、1時間より少ない」	25.6%	25.8%
「30分より少ない」	9.3%	10.5%
「全くしない」	14.0%	4.2%

家庭学習については全国平均とほぼ同等であるが、1時間未満の児童が5割近くおり、特に全く家庭学習をしていない児童が1割もいる。かなり個人差が見られるので、家庭学習の手引きをもとに家庭学習の意味を保護者や児童に伝えて家庭学習が習慣化するように指導をしていきます。また、自分の目標に向かって、計画を立てて家庭学習を行う習慣についても指導していきます。

(2) 改善に向けての取り組み

【学校では】

- 学校からは、学年に応じた宿題を出しています。自主学習（自学）についても高学年で取り組み、お手本になる自学ノートを紹介して、自学の仕方を指導しています。
- 朝の読書タイム、地域と連携した読み語りの「やまびこタイム」を設け、読書を推奨しています。また、図書委員会を中心に読書イベントも行って、読書の機会を増やすための工夫をしています。効果が現れてきているので、これからも継続していきます。

【ご家庭では】

- 上記の項目の結果について、改善にもなる「家庭学習がんばり週間」が定期的にあります。規則正しい生活と家庭学習の定着は、極めて大切なことです。お子さんが自分からできたとき、少しでも向上したときを逃さず、褒めることで意識が更に高まります。
- 「巨勢小家庭学習の手引き」をご覧ください。学習時間のめやすや、自主学習の説明を参考に、自分で決めて学習できるように励ましてください。